

令和2年度事業報告書

社会福祉法人 三峰福祉会
特別養護老人ホーム 黎明館
短期入所生活介護事業所 黎明館

【基本理念】

当法人は、下記の理念に基づいて事業運営にあたった。

『信頼される真心のこもった介護サービスの提供』

〔特別養護老人ホーム〕

本年度、特別養護老人ホーム黎明館の事業運営においては、基本理念『信頼される真心のこもった介護サービスの提供』に基づき、明るい雰囲気作りを図るとともに、入居者にとって安全で快適な生活環境とするべく支援にあたった。

また、入居者個々の意向を尊重し、日常生活上必要な諸サービスの充実を図るとともに、家族との連携を重要視したサービスの提供に努めた。

また、行政機関、各居宅介護支援事業所、介護保険施設との連携を図る事により、新規申し込み者の開拓にも努めた。

〔短期入所生活介護〕

本年度、短期入所生活介護事業所黎明館事業運営においては、年度平均利用率が20.2%の利用だった。

【年度重点目標に関する評価】

① 個別ケアへの取り組みについて

例年継続して排泄等個別ケア介護全般に渡って取り組んでいるが、まだ入居の方々の状況に応じた個別ケアへの支援が十分に行えている状況ではない。次年度も継続して個別の支援が実践できるよう努めて行く。

② 各種委員会活動の活性化

各種委員会活動については、各委員会の委員長を中心に様々な活動を行った。特に感染症対策委員会は産業医、嘱託医の助言を得つつ感染予防策を講じたが、新型コロナウイルスの流行継続により、面会制限等の諸対策を継続した。幸いにも山鹿地域での高齢者施設での集団感染事例等が報告されるも当施設での発症事例は見られなかった。

③ 身体拘束廃止に向けた取り組み

身体拘束については、あくまで拘束ゼロの考えから、拘束をせず・させずを基本とした。

ただし、生命または身体を保護するため緊急止むを得ない場合、切迫性、非代替性、一時性を確認した上で家族へ説明し同意を得、第3者委員の意見を付した上で行動制限を行った。

令和2年度は身体拘束対象者はいなかった。

④ マネジメント機能の充実

ケアプランは全てのサービス提供の根幹となる事から、本年度もプランの内容及び実践に関する充実を図ってきた。

また、入居時のカンファレンス、入院後の退院時カンファレンス、状態変化時にもカンファレンスを開催し、本人希望のみならず家族の意向も確認できるよう努めた。

⑤ 自主性の尊重

業務全般に渡って、自主性は必要不可欠なものであり、各職員が目標を持って積極的に業務に取り組むべく支援にあたった。

⑥ 大規模改修工事について

福祉充実化計画に沿って、年度ごとに施設の設備等の更新、建物全体の改修工事等を進めているが、今年度は全館の内壁、床面のリニューアルを実現する事ができた。

改修を終えた事で館内が明るくなり入居の方々の生活環境が向上した。

【年間行事報告】

月	行事計画
4	桜花見
5	しょうぶ湯、ふれあい会総会
6	物故者慰霊祭
7	運動会
8	そうめん流し
9	敬老祝賀会、月見団子作り
10	紅葉見物
11	ぜんざい会
12	クリスマス・忘年会
1	年賀式、鏡開き、初詣、新年法話
2	節分豆まき
3	雛祭り、彼岸団子作り、創立記念日祝賀会
月例行事	野外活動、喫茶、懇談会、誕生会

年間利用状況

1. 特別養護老人ホーム

①利用状況推移調べ

月	延べ日数 (R1)	延べ日数 (R2)	利用率 (R1)	利用率 (R2)	平均利用率	平均介護度
4	1386	1408	92.4	93.9		4.12
5	1459	1404	94.1	90.6		3.96
6	1388	1343	92.5	86.6		4.14
7	1336	1489	86.2	96.1		4.09
8	1402	1518	90.5	97.9		4.07
9	1415	1360	94.3	90.6		4
10	1473	1370	95	88.4		4.02
11	1451	1380	96.7	92		4.04
12	1438	1406	92.8	90.7		4.06
1	1412	1411	91.1	91	R1	4.02
2	1348	1260	93	90	92.6	4.02
3	1444	1404	93.2	90.6	R2	4.04
合計	16952	16753	1111.8	1098.4	91.5	48.58

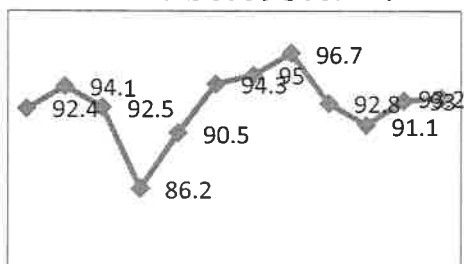
②年間要介護度推移状況調べ(実人員)

月	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
4	0	1	8	25	16
5	0	1	8	25	16
6	0	1	7	25	16
7	0	1	10	25	17
8	0	1	10	25	16
9	0	1	12	24	14
10	0	1	11	22	14
11	0	1	11	21	15
12	0	1	11	22	16
1	0	1	12	20	15
2	0	1	13	19	16
3	0	1	13	19	17
合計	0	12	126	272	188

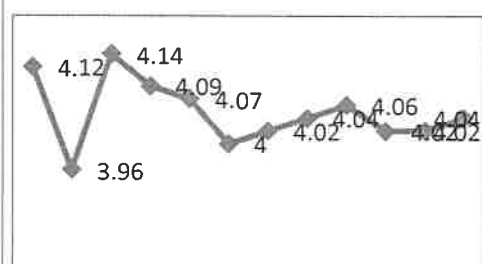
③年間要介護度推移状況調べ(実日数)

月	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
4	0	30	188	721	469
5	0	31	217	680	476
6	0	30	188	687	438
7	0	31	259	715	484
8	0	31	310	712	465
9	0	30	341	624	365
10	0	31	341	608	390
11	0	30	330	591	429
12	0	31	333	569	473
1	0	31	332	589	459
2	0	28	348	460	424
3	0	31	387	515	471
合計	0	365	3574	7471	5343

令和2年度特養利用率



令和2年度要介護度



2. 利用者状況調べ(令和3年3月31日現在)

① 利用者年齢構成状況調べ

年齢	男性	女性	合計
65歳～65歳未満	0	0	0
65歳以上～75歳未満	1	2	3
75歳以上～85歳未満	1	5	6
85歳以上～90歳未満	2	13	15
90歳以上～95歳未満	2	13	15
95歳以上～100歳未満	3	4	7
100歳以上	0	2	2
合計	9	39	48
平均	89歳 10ヶ月	88歳 8ヶ月	88歳 10ヶ月
最高齢	99歳 2ヶ月	101歳 10ヶ月	101歳 10ヶ月

② 在所期間調べ

	男性	女性	合計
1年未満	4	14	18
1年以上～3年未満	3	7	10
3年以上～5年未満	1	7	8
5年以上～10年未満	1	12	13
10年以上	0	1	1
合 計	9	41	50
平 均	1年 10ヶ月	3年 7ヶ月	3年 3ヶ月

③ 職員配置状況調べ

職種	常勤	非常勤	
特養施設長(管理者)	1		短期兼務
事務職員	4		
生活相談員	1		短期兼務
介護支援専門員	1		短期兼務
看護職員	2	2	短期兼務(1)
機能訓練指導員	2		短期兼務(1)
管理栄養士	1		ユニット、短期兼務
介護職員	12	8	内介護福祉士11名

年間利用状況

1. 短期入所生活介護

①利用状況推移調べ

月	延べ日数 (R1)	延べ日数 (R2)	利用率 (R1)	利用率 (R2)	平均利用率	平均介護度
4	39	36	13	12		2.5
5	42	50	13.5	16.1		2.75
6	48	45	16	15		2.5
7	85	64	27.4	20.6		2.43
8	78	80	26	25.8		1.86
9	74	85	24	28.3		1.6
10	57	74	18.4	23.9		2.13
11	56	60	18.7	20		2.17
12	46		14.8			
1	78		25.2		R1	
2	86		30		20.1	
3	45		14.5		R2	
合 計	734	494	241.5	161.7	17.94	

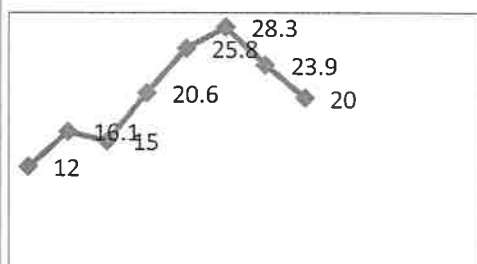
②年間要介護度推移状況調べ(実人員)

月	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
4	0	0	2	2	0	0
5	0	0	2	1	1	0
6	0	2	1	1	2	0
7	0	0	0	1	0	0
8	0	3	3	0	1	0
9	0	2	3	0	0	0
10	0	2	4	1	1	0
11	0	1	4	0	1	0
12						
1						
2						
3						
合 計	0	10	19	6	6	0

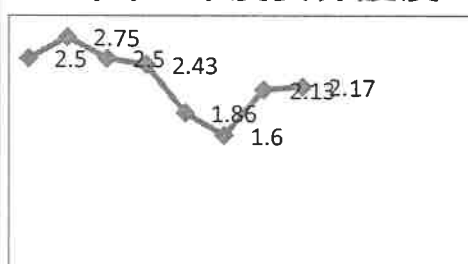
③年間要介護度推移状況調べ(実日数)

月	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
4	0	0	7	29	0	0
5	0	0	12	27	11	0
6	0	9	8	14	14	0
7	0	32	18	11	3	0
8	0	44	33	0	3	0
9	0	38	47	0	0	0
10	0	21	45	2	6	0
11	0	11	20	0	29	0
12						
1						
2						
3						
合 計	0	155	190	83	66	0

令和2年度短期利用率



令和2年度要介護度



令和2年度行事等開催状況調べ

[illegible]

令和2年度実習受入状況調べ

受入年月日	教育機関名	実習生	備考欄
2年7月27日～ 2年8月5日	城北高校		社会福祉実習

防災関係

今年度の防災に関する取り組みとしては、防火管理委員会を中心として各種訓練、教育及び講習会の充実を図る事で職員の防災意識の向上をめざした。

今年度の総合訓練実施時には震災対応の訓練はもちろんの事、各部への火点発生箇所事前通知を廃止する等より実践的に近い訓練とする事ができた。

なお、定期的実施している防災教育についても、非常時の取り組みから消防設備の取り扱い要領等を学ぶ事ができ、より職員の防災意識の向上につなげる事ができた。

① 令和2年度消防総合訓練実施状況調べ

開催年月日	想定区分	主な内容	備考欄
令和2年7月27日	夜間	総合訓練(避難、消火、通報)	班員6名のみ
令和3年3月15日	昼間	総合訓練(避難、消火、通報)	班員6名及び全職員

② 令和2年度救急蘇生法講習会実施状況調べ

開催年月日	想定区分	主な内容	備考欄
令和 年 月 日		新型コロナ流行により中止	

③ 令和2年度消防通報召集訓練実施状況調べ

開催年月日	想定区分	主な内容	備考欄
令和2年11月27日		非常時の通報訓練	

④ 令和2年度消火訓練実施状況調べ

開催年月日	想定区分	主な内容	備考欄
令和2年7月27日	昼間	総合訓練実施時の消火訓練	

⑤ 令和 年度防災教育実施状況調べ

防災教育(期)	開催年月日	主な内容	講師
I 期	令和2年7月27日	総合訓練時の消火訓練	熊本市消防局
II 期	令和2年12月23日	新設自家発電設備の取り扱い説明	シスケン宮本
III 期	令和3年2月14日	消防設備の取り扱い説明	村上
IV 期		中止	

⑥ 令和2年度消防設備点検実施状況調べ(自主点検分)

実施状況	主な内容	点検者	備考欄
毎月1回	消防設備自主点検	村上	

⑦ 消防設備点検実施状況調べ(業者委託分)

1. 非常通報装置関係

点検日	点検業者	主な点検内容
令和2年9月29日	熊本環水	消防設備全般の法定点検
令和3年3月25日	熊本環水	消防設備全般の法定点検

2. 火災受信盤、非常放送設備等消防設備全般

点検日	点検業者	主な点検内容
令和2年4月7日	ジャパンテレコム	非常通報装置の法定点検
令和 年 月 日	ジャパンテレコム	非常通報装置の法定点検

⑧ 防火管理委員会開催状況調べ

開催日	主な内容
開催日 令和2年7月30日	議題1: 消防総合訓練実施後の反省他 議題2: 議題3: →詳細は会議録に記載
開催日 令和3年3月25日	議題1: 令和2年度消防関係訓練、教育等の実施日程について 議題2: 令和2年度防災教育の実施について 議題3: その他 →詳細は会議録に記載

⑨ 消防署立ち入り検査状況報告

検査日	指摘事項	改善事項
平成29年9月27日	消防設備については定期点検を行い、熊本市北消防署長へ提出する事。	定期点検後は点検業者より熊本市北消防署長へ報告する形へ変更。

研修関係

また、同時に学ぶ事がサービスに関する質の向上を図る事ができると考え、介護技術に関する研修についても多くの時間を費やすと同時に、基本的な研修についても力を入れた。

令和2年度施設内研修実施状況調べ

月	日	外部報告・内研修の別及び 参加人数	主な研修内容	講師
4		内研修 名	中止	
5		内研修 名	中止	
6	22	内研修 21名	褥瘡に関する研修会	村上洋、松永
7	20	内研修 18名	接遇に関する研修会	村上
8		内研修 名	中止	
9		内研修 名	中止	
10	28	内研修 44名	認知症に関する研修会	資料回覧
11		内研修 35名	褥瘡に関する研修会	資料回覧
12		内研修 40名	権利擁護、身体拘束、倫理に関する研修会	資料回覧
1		内研修 36名	リスクマネジメント	資料回覧
2		内研修 名	中止	
3		内研修 36名	介護技術研修	資料回覧

年間参加者 264名

令和2年度外部研修参加状況調べ(主要研修のみ)

[illegible]

感染症対策関係

今年度の感染症対策としては、施設内に設置している感染症対策委員会を中心として、感染症に関する指針、マニュアルの定期的な見直し、地域での感染症の発症状況の把握等を業務として取り組んだ。

また、新型コロナウイルス感染症については、感染の拡大状況等をその都度確認し、委員会としての対策立案に努めた。

また、職員への感染注意喚起並びに家族へも面会の確認等連絡があった時等に説明する等情報提供を図り、理解を求めた。

令和2年度感染症対策委員会開催状況調べ

月	日	主な議題	出席者
4	2	新型コロナウイルスによる新型肺炎発症について	6
7	22	感染症流行状況について、コロナウイルス感染症流行状況	8
7	28	臨時:コロナウイルスによる感染流行状況(山鹿等)	7
10	27	コロナウイルスによる感染症について等	6

令和2年度感染症対策研修開催状況調べ

月	日	主な研修内容	出席職員
4	2	新型コロナウイルス感染症に感染しないために(資料配布)	全職員
6	1	感染対策について	21名
10	9	インフルエンザについて	17名
11		ノロウイルス感染症について(資料回覧)	全職員
12		インフルエンザについて(資料回覧)	全職員
1		咳エチケットについて(資料回覧)	全職員
2		密回避について等(資料回覧)	全職員
3		手洗いの方法について	全職員

生活相談部門

今年度、生活相談部門では、入居者が日々快適に過ごせるよう、必要な生活援助及び相談業務にあたった。

また、利用の方々に悩みや相談等がある場合には、随時対応するとともに、安心感を持っていただけるような援助に努めた。

なお、各種委員会活動については、利用者にとってより良い生活環境となるよう、施設全体が活性化できるよう必要に応じて助言等に努めた。

介護サービスに関する苦情受け付け状況については、小さな要望等はあったが、苦情として検討、対策を講じるような事案はなかった。

入所判定委員会の運用については、公正中立を第一に運用を図るとともに、外部委員の助言等も得つつ適切な運用に努めた。

最後に地域に根差した施設作りのため、地域住民、実習、ボランティア団体の受け入れについても各部と協力しながら積極的に行った。

① 入退所状況調べ

月	入居	退居	在復	合計
4	1	1	0	2
5	0	0	0	0
6	1	2	0	3
7	4	3	0	7
8	1	2	0	3
9	2	1	0	3
10	2	2	0	4
11	2	1	0	3
12	1	1	0	2
1	1	2	0	3
2	1	1	0	2
3	1	2	0	3
合計	17	18	0	35

② 入居前居住状況調べ

	合計
在宅	6
施設	4
医療機関	7
その他	0
合計	17

③ 身体拘束状況調べ

利用者	性別	要介護	拘束の内容
同意日	対象者なし		
期間			
中止			

ケアマネジメント部門

今年度ケアマネジメント部門では、利用者の身体的、精神的な状況を把握するとともに、家族のケアに対する意向を十分に把握する事でより利用者主体のケア提供とすべくケアプランの作成にあたった。

また、入居時、入院後の退院カンファレンスを開催する事で家族と職員が連携する事ができた。なお、状態が変化した場合にも随時会議を開催し、統一したケアができるよう支援にあたった。

最後に、プラン作成後は必ず家族の同意を得た上でプランを発行する事とし、家族に対してもプランを発行した。

介護部門

今年度介護部は、パーソンセンタードケア(その人らしい生活)を念頭に置き、『いつまでも自分らしく暮らしたい』という利用者の思いを重視し、『その人らしさ』を支えるために、個別ケアへの取り組みを勧めた。

一つの取り組みとして、女性の排泄ケア時には可能な限り女性職員が付き添う、一定時間での排泄ケアではなく、個々に違いがある排泄感覚に沿って誘導する等の取り組みを行った。(羞恥心への対応)

また、ケアにあたっては利用者本人のみでなく家族との連携を十分に図り、カンファレンス時や面会時等に意向等を確認した上で、ケアそのものに反映させた。

① 食 事

利用者個々の嚥下能力や摂取能力に応じた食事の提供を進めた。また、状態変化時の迅速な食形態の変更等職種間で連携を保つ事で随時対応する事ができた。また、嗜好調査の結果を踏まえた上で食事内容、形態に工夫を加える事ができた。更に正しい姿勢での食事摂取は誤嚥を予防する効果があるとされている事から、椅子等を活用し、美味しく楽しく食事を楽しんでいただけるよう支援にあたった。

② 排 泄

利用者一人一人の排泄形態に応じた排泄ケアが提供できるよう、常に自立支援を第一に考えつつ既存トイレ、PTイレ等を最大限に活用しサービスの提供にあたった。また、排泄への支援は人としての尊厳を守る原点であるとの考えから、プライバシーの保護に留意しながら支援にあたった。

③ 入 浴

入浴サービスについては、一般浴、中間浴、特別浴等の入浴設備を最大限活用し、入浴サービスの提供にあたった。

また、サービス提供にあたっては、利用者個々の身体状況等に応じた入浴サービス提供を支援するため、ADL調査での状態確認及び入浴形態確認表での入浴形態確認を確認をした上で、自立支援につなげる事ができた。

④ レク活動

今年度レク活動については、午後の時間を中心に『楽しく元気』を基本に諸活動を行った。また、野外活動や地域の学校等の発表会、運動会等へも利用者の希望を確認しつつ参加支援を行い、社会参加の機会作りに努めた。

⑤ 口腔ケアについて

口腔ケアについては、毎食後3回のケアを継続的に行う事で、口腔内の清潔を保つ事ができ、肺炎の発症予防につなげる事ができた。

⑥ 諸委員会活動

1. 活性、接遇委員会

活性委員会では、レク活動等の活性化により施設生活がより活動的となるよう、担当職員を中心に一体となって取り組んだ。

また、接遇委員会ではあいさつ、身だしなみ、態度、言葉遣い並びに整理整頓等を

重点目標として活動を行った。

2. 排泄委員会

排泄委員会では、利用者個々の排泄感覚、状態の把握により、より個別に対応できるようケアの見直し等を随時行うとともに、プライバシーの保護に十分留意した支援に努めた。

また、入居される方々の高齢化も進んできており、重度化によるオムツ対応者の増加が見られるので、トイレでの排泄が可能ではと判断できる方については、随時トイレ誘導等個々の状況に合わせた支援に努めた。

3. 安全対策委員会

安全対策委員会では大きく委員会を大、小委員会に区分し委員会活動を行った。小委員会では各事故、ヒヤリハット事例の報告検討会を実施し、原因の再分析と対策について討議した。

なお大委員会では小委員会での討議事項、事故に対する原因分析、対策評価等を行い、必要に応じて対策等の変更及び追加の決定を行った。

前年度の介護事故の発生件数は31件であったが、今年度は23件の発生となった。

4. 褥瘡委員会

今年度、褥瘡委員会では褥瘡予防を第一に嘱託医、協力医と連携しつつ予防に努めた。また、予防するために、体位交換やエアーマットの使用並びに体位交換用マット等を利用者の身体的状況等総合的に判断して利活用を勧めた。

なお、個々の状況把握として、OHスケールを医務を中心として定期的に作成し、スケールの結果も褥瘡予防のために最大限活用した。

最後に、予防器具等のみに頼るのではなく、定期的な体位交換や栄養管理等多職種で連携し、支援に努めた。

5. ふるさと巡りについて

入居以前に過ごされていた入居者ごとの地域を巡る等の活動を実施していたが、新型コロナウイルス流行により開催を見合わせた。

令和2年度介護事故状況調べ

月	内容	転倒・転落	表皮剥離・外傷	骨折	誤薬	誤配膳	その他	備考
4月			2				1	異食行為1
5月			3					
6月			2		1			
7月			2					
8月			3				1	誤嚥1
9月			2					
10月		1	1			1		
11月							2	居室壁破損1、誤嚥1
12月			1	1				
1月			1					
2月								
3月								
合計		1	17	1	1	1	6	

看護部門

今年度、看護部門は利用者の日々の健康管理に重きを置き日常の業務にあたった。また、体調不良等の早期発見、早期対応に努め嘱託医等を連携しつつ早期治療につなげる事ができている。なお、感染症に対する対応としては、対策研修において様々な感染症に対する基本的知識、予防策等の学びの場として最大限活用している。

最後に、入院者の原因疾患としては肺炎、内臓疾患等が多かった。

1. 嘱託医回診状況調べ

2. 協力医往診状況調べ

月	数	回数	人数	計	月	数	眼科	歯科	受診	計
4月		5	232	232	4月		6			6
5月		4	180	180	5月		8	2		10
6月		4	180	180	6月		7			7
7月		5	228	228	7月		5			5
8月		4	187	187	8月		4	3		7
9月		4	179	179	9月		6			6
10月		5	219	219	10月		6		2	8
11月		4	183	183	11月		6	1		7
12月		5	224	224	12月		5	2		7
1月		4	184	184	1月		4			4
2月		4	185	185	2月		5			5
3月		4	180	180	3月		3			3
計		52	2361	2361	計		65	8	2	75

3. 受診状況調べ(外来)人数(嘱託医)

	内科	外科	整形外科	皮膚科	循環器科	耳鼻咽喉科	神経内科
4月	8						
5月	7			1	2		
6月	7			2			
7月	4		1				
8月	7					1	
9月	6		1	4		1	2
10月	2			2			1
11月	6		2	1		1	
12月	11		2	5		1	
1月	6		1	1			1
2月	7			3			
3月	12						
計	83	0	7	19	2	4	4

受診状況調べ(外来)人数(嘱託医以外)

	内科	外科(整形)	精神科	脳神経	神経内科	循環器科	婦人科	泌尿器科
4月	1	1			2			
5月	3	1	1	1		1		1
6月	2		1			2		1
7月	2		2		1			1
8月	1	1	2	1				
9月	2			2				
10月	2		2					1
11月	1	1						
12月		2	1					
1月	1	1		1				
2月	1							
3月			1					
計	16	7	10	5	3	3	0	4

4. 利用者健康診断状況調べ

実施日	胸部(X線)	心電図	採血	検尿	予防接種 混合型インフルエンザ	肺炎球菌
令和2年6月30日		42	42	42		5
令和2年7月6日	43					
令和2年10月2日		41	41	42		
令和2年10月22日～11月5日					50	

5. 職員健康診断状況調べ

実施日	協会けんぽAコース	定期A コース	法定コース	腰椎検査	予防接種 混合型インフルエンザ
令和2年6月29日	28	0	9	13	
令和2年11月25日	0	0	15	13	
令和2年10月30日					38

※分は産業医以外での接種

ストレスチェック

実施日	実施内容	判定結果
令和2年6月	職員55名中提出職員6名	高ストレス該当者は無

機能訓練部門

今年度機能訓練部門では、利用者の身体状況に応じたADL評価等に基づいた機能訓練計画書を作成し、機能訓練の充実を主眼に置いてサービス支援に努めた。

また、サービス提供にあたっては家族または本人への計画書の説明と同意を得る事を徹底するとともに、介護、医務での連携をとる事でより活動的な日常生活を送る事ができるよう援助にあたった。

なお、リハビリについては日常生活動作訓練を主体としつつ、利用者の状況に応じて、歩行、起立等の訓練も随時行えるよう支援し、残存機能を活かした生活が実現できるよう努めた。

給食部門

今年度給食部門では、常に利用者の健康状態並びに栄養状態に配慮した給食サービスの提供に努めた。

1. 栄養ケア、栄養マネジメントを充実させる事により低栄養状態の改善に努めた。
2. 利用者個々の嚥下能力等を適切に把握する事で、個々の状況にあった食形態を提供する事ができた。
3. 適時適温給食サービスを提供する事で、より家庭での食生活に近づける事ができるよう支援にあたった。
4. 定期的な嗜好調査並びに誕生月時での希望食等により、『選ぶ楽しみ』を持つ機会作りとともに献立作りに努めた。
5. 衛生管理について、食中毒の予防はもちろんの事、安全安心な食材選定に細心の注意を払いながら日常業務にあたった。

令和2年度行事食等状況調べ

月	内 容
4月	花見弁当
5月	端午の節句料理
6月	運動会弁当、田植え団子作り
7月	土用丑の日、慰霊祭精進料理
8月	そうめん流し、お盆精進料理
9月	敬老祝賀会祝い膳、月見団子作り
10月	
11月	ぜんざい会
12月	クリスマス・忘年会、年越しそば
1月	お節料理、七草粥、鏡開き
2月	節分料理
3月	ひな祭り料理、彼岸団子作り、創立記念日祝い膳

令和2年度食種別食数状況調べ【特養】

月 食種	米 飯						合計
	常食	刻み	小刻み	極小刻み	ペースト	流動食	
4月	143	513	303	270	0	0	1229
5月	186	493	187	369	0	0	1235
6月	180	506	180	266	0	0	1132
7月	93	644	364	219	0	0	1320
8月	93	829	430	206	0	0	1558
9月	90	853	307	180	0	0	1430
10月	109	930	279	186	0	0	1504
11月	262	708	290	180	0	0	1440
12月	186	558	378	186	0	0	1308
1月	319	561	265	186	0	0	1331
2月	268	588	252	160	0	0	1268
3月	189	705	279	123	0	0	1296
合 計	2118	7888	3514	2531	0	0	13933
平 均	176.5	657.3	292.8	210.9	0	0	

月 食種	全 粥						合計
	常食	刻み	小刻み	極小刻み	ペースト	流動食	
4月	0	181	180	1170	1005	352	2888
5月	0	279	107	1209	907	367	2869
6月	0	244	77	1266	939	270	2796
7月	0	126	260	1239	930	279	2834
8月	0	61	371	1113	974	269	2788
9月	0	90	449	925	900	180	2544
10月	0	93	372	840	1032	256	2593
11月	0	75	360	887	1104	270	2696
12月	0	49	372	1023	1170	279	2893
1月	0	93	372	1026	1123	279	2893
2月	0	84	336	1018	946	252	2636
3月	0	93	439	1037	994	186	2749
合 計	0	1468	3695	12753	12024	3239	33179
平 均	0	122.3	308	1062.8	1002	267	2765

令和2年度食種別食数状況調べ【短期】

月 食種	米 飯						合計
	常食	刻み	小刻み	極小刻み	ペースト	流動食	
4月	0	64	0	33	0	0	97
5月	21	55	0	30	0	0	106
6月	24	62	0	32	0	0	118
7月	52	84	0	32	0	0	168
8月	120	51	0	35	0	0	206
9月	106	20	0	34	0	0	160
10月	13	20	0	33	0	0	66
11月	33	27	0	7	0	0	67
12月	8	29	0	0	0	0	37
1月	14	92	0	0	0	0	106
2月	113	116	6	0	0	0	235
3月	95	18	11	0	0	0	124
合 計	599	638	17	236	0	0	1490
平 均	49.9	53.2	1.4	19.7	0	0	173.4

月 食種	全 粥						合計
	常食	刻み	小刻み	極小刻み	ペースト	流動食	
4月	0	0	0	0	0	0	0
5月	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	38	0	0	0	0	38
8月	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	41	0	0	0	0	41
10月	0	88	0	0	0	0	88
11月	0	33	52	0	0	0	85
12月	0	0	90	0	0	0	90
1月	0	0	114	0	0	0	114
2月	0	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	0
合 計	0	200	256	0	0	0	456
平 均	0	16.7	21.3	0	0	0	